

9 歷史民俗資料学研究科

教育研究上の目的（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科規程より抜粋）

本研究科の博士前期課程は、歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力を身に付け、その能力、知識及び技能を教育・研究をはじめ様々な領域で発揮できる人材の育成を目的とする。

本研究科の博士後期課程は、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力、知識及び技能をさらに向上させ、創造性豊かな教育・研究活動を行うことのできる研究者の育成を目的とする。

教育目標

歴史民俗資料学研究科 歴史民俗資料学専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻前期課程では、日本列島の歴史と文化に関して、歴史資料学、民俗資料学、非文字資料学の3つの分野を柱とした体系的な教育課程に基づき、新たな研究領域を開拓する総合的な資料学に関する専門教育を展開することによって、広い視野に立つ専門性豊かな能力を発揮できる人材を育成することを教育の究極的な目標としています。

日本社会を究明するには、歴史学及び民俗学の学問分野からのアプローチは不可欠であり、その研究の基礎として必ず資料が存在します。その資料を適切に扱い活用する学問として、本研究科は資料学という新しい学問領域を開拓しています。学生に対する教育と研究は、本研究科の設立基礎となっている神奈川大学日本常民文化研究所及びその附置施設となっている非文字資料研究センターと密接に連携して行ない、資料の調査収集、修復保存、分析方法をなどに関する実践的な知識と技法を学修し、地域社会の文化活動や地域文化の保存・育成にあたる幅広い知識と能力を身につけた高度専門職業人を養成することを教育目標として定めます。

歴史民俗資料学研究科 歴史民俗資料学専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻後期課程では、日本列島の歴史と文化に関して、歴史資料学、民俗資料学、非文字資料学の3つの分野を柱とした、歴史民俗資料学に関する高度な専門教育を展開して、日本文化を世界に発信し国際的に活躍する研究者の育成を教育の究極的な目標としています。

日本社会を究明するには、歴史学及び民俗学の学問分野からのアプローチは不可欠であり、その研究の基礎として必ず資料が存在します。その資料を適切に扱い活用する学問として、本研究科は資料学という新しい学問領域を開拓しています。学生に対する教育と研究は、本研究科の設立基礎となっている神奈川大学日本常民文化研究所及びその附置施設となっている非文字資料研究センターと密接に連携して行ない、資料学に関するより高度な専門教育を学修し、専門的な調査・研究能力及び学際性をもった論文作成能力とプレゼンテーション能力を涵養し、歴史民俗資料学の新たな領域を開拓する研究者を養成することを教育目標として定めます。

研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）

博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、本研究科博士前期課程修了に値する以下の能力を身につけていると判断され、修士（歴史民俗資料学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

（1）歴史民俗資料学に基軸を置いた知的な学識を修得する能力を有している。

（2）調査・研究に伴う資料の調査・収集、修復・保存などに関する実践的な知識と技法を習得し、地域社会の文化活動や地域文化の保存・育成にあたる幅広い知識と能力を身につけ、社会に貢献できる素養を備えている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 歴史民俗資料学に関する専門的知識と技能をもって、国際社会に貢献しうる能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 歴史資料・民俗資料・非文字資料を適切に扱う技法を身につけ、その資料を分析して日本社会の特質を究明する調査・研究能力を修得している。

(2) 歴史資料・民俗資料・非文字資料の総合的な資料学の分析を基礎とした専門的な知識を身につけ、高度専門職業人としての必要不可欠な能力を修得している。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、日本列島の歴史と文化に関して、新たな領域を開拓する資料学の手法を学修することを目的としており、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1) 歴史資料学、民俗資料学、非文字資料学の3つの分野を柱とし、文字資料や非文字資料といった多様な資料形態に対応した総合的な資料学を学修できる。

(2) 高度専門職業人の養成に対応して、博物館学関連の科目群とともに、歴史民俗資料学に関連する多様な科目が設けられている。

(3) 社会人や留学生など学生の様々な状況に対応するため、学修において昼夜開講制・セメスター制をとり、さらに秋季入学制度・長期履修制度を設けている。

2. 教育の方法と評価

(1) 実技実習と調査実習を重視することで、歴史民俗資料を扱う技能や調査方法を実践的に習得できるようにしています。

(2) 教育・研究は本学付設の神奈川大学日本常民文化研究所や非文字資料研究センターと密接に連携して行われており、学生は研究所やセンターが主催する研究会や調査に参加する機会を有し、また研究所の所蔵資料を利用することができるようになっている。

(3) 上記研究所等における中国・韓国・カナダ・ドイツ・フランスなど海外提携大学への短期留学の機会を有し、国際的な視野に立った歴史民俗資料学の学修ができるようになっている。

(4) 論文演習の授業科目を設け、集団指導のもと高度な専門知識と学際性を持った論文作成能力を養えるようにしている。

(5) 修士論文の作成過程において、2回の中間報告会を設定し、適時、進捗状況の把握をはかる。

(6) 修士論文の審査には、2名の教員があたり、口頭試問を実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって養う能力

(1) 歴史民俗資料の調査・収集、修復・保存などに関する実践的な知識と技法を養う。

(2) 教育職員専修免許（中学校社会・高等学校地理歴史）を取得し、あるいは学芸員としての専門性を高めることで、歴史民俗資料学に関連する高度な専門職に就けるようにする。

2. 本専攻の求める入学者像

(1) 日本列島の歴史と文化に関して、新たな領域を開拓する意欲を持っている人

(2) 日本および東アジアの歴史と文化に関心を持ち、歴史民俗資料学の手法をもって現実社会の諸問題に対応できる能力を高め、技法を修得したい人

(3) 歴史民俗資料に関して、高度で知的な学識の修得を目指す人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

(1) 歴史学、民俗学等、歴史民俗資料学を学修するうえで必要となる専門分野の基礎学力や能力を備えているか判断する。

(2) 留学生に対しては指定校推薦を行っている。

(3) 指導教員が推薦したものについては筆記試験を免除する特別選考を行っている。

博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、本研究科博士後期課程修了に値する以下の能力を身につけていると判断され、博士（歴史民俗資料学または学術）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 歴史民俗資料学に関する専門的知識と技能をもって、現代社会に貢献しうる能力を身につけている。
- (2) 21世紀 COE プログラムの研究成果をうけ、非文字資料学に関する専門性の高い調査・研究を行い、歴史民俗資料学の新たな領域を開拓する研究者としての能力を備えている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 歴史民俗資料学の研究分野において、国際的に通用する高度の専門的な調査・研究能力を修得している。
- (2) 歴史民俗資料学の研究成果を、論文等で国際的に発信しうる能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 歴史資料・民俗資料・非文字資料を適切に扱う技法をさらに深め、その資料を分析して日本社会の特質を解明する専門的な調査・研究を行い、大学・研究機関などの教育・研究活動に携わる能力を有している。
- (2) 歴史民俗資料学に依拠した高度で知的な学識を修得し、その専門的な研究を社会へ還元できる能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、日本列島の歴史と文化に関して、新たな領域を開拓する資料学の手法を学修することを目的としており、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 歴史資料学、民俗資料学、非文字資料学の3つの分野を柱とした、歴史民俗資料学に関する高度な専門教育を受けることができる。このうち非文字資料学は21世紀 COE プログラムの研究成果をもとに学問の新領域を開拓するもので、より高度な資料学を学修することができる。
- (2) 社会人や留学生など学生の様々な状況に対応するため、学修において昼夜開講制・semester制をとり、さらに秋季入学制度を設けている。

2. 教育の方法と評価

- (1) 教育・研究は本学付設の神奈川大学日本常民文化研究所や非文字資料研究センターと密接に連携して行われており、学生は研究所やセンターが主催する研究会や調査に参加する機会を有し、また研究所の所蔵資料を利用することができるようになってきている。
- (2) 上記研究所等における中国・韓国・カナダ・ドイツ・フランスなど海外提携大学への短期留学の機会を有し、日本の歴史と文化を世界に発信し国際的に活躍できる研究者を養成することができるようになってきている。
- (3) 上記研究所等が行う共同研究の研究協力者や TA（ティーチング・アシスタント）などに就くことで、教育・研究指導者としての経験を積むことができる。
- (4) 学位論文作成指導の強化を図るため論文演習の授業科目を設けることで、プレゼンテーション能力を高め、より高度な専門知識と学際性を持った論文作成能力を養えるようにしている。
- (5) 学位論文の作成過程において、中間報告会を設定することで進捗状況の把握をはかるとともに、予備審査論文の提出を求め、2名の教員が事前審査をおこなうこととする。
- (6) 学位論文の審査は、3名の学内教員および必要に応じて学外の専門家を加えておこなうこととし、口頭試問を実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって養う能力

- (1) 歴史民俗資料学に関して、高度な専門性を持った調査・研究能力を養う。
- (2) 既存の学問体系を超えて、歴史民俗資料学という新たな研究領域を開拓できるようにする。

2. 本専攻の求める入学者像

- (1) 歴史民俗資料に関して、より高度で知的な学識の修得を目指す人
- (2) 日本列島の歴史と文化に関して、新たな領域を開拓する意欲を持っている人
- (3) 研究者となり、歴史民俗資料学を中心とした教育・研究活動や文化活動により、社会に貢献したい人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 歴史学、民俗学等、歴史民俗資料学を学修するうえで必要となる専門分野の学力や能力を備えているか判断する。
- (2) 留学生に対しては指定校推薦を行っている。

履修案内

歴史民俗資料学研究科は、日本における歴史学・民俗学の発展を背景に、さらに資料学という新たな研究領域を開拓するために設置された日本で初めての資料学研究科である。特定の学部に基礎を置かない大学院として、神奈川大学の各学部部に所属する教員が本研究科の教育及び研究指導に当たっており、本学の充実した研究スタッフを全学的に結集した研究科である。

斬新で先駆的な教育を行うために、2010年度よりカリキュラム改訂を実施した。カリキュラムの特色は、**歴史資料学・民俗資料学・非文字資料学**の3つの分野から成っていることである。**歴史資料学**には歴史学の時代区分に基づいた古代・中世史科学、近世史科学、近代史科学、現代史科学で構成されている。**民俗資料学**は民俗社会資料学、民俗宗教資料学、口承民俗資料学、民俗技術資料学、比較民俗資料学の民俗学のテーマを網羅して構成されている。**非文字資料学**は芸術文化資料学、文化遺産資料学、景観資料学、建築文化資料学、オーラルヒストリーから構成されている。院生はこれらの中から自己の専門とする科目を選択して履修し、その担当教員の研究指導を受けるとともに、3つの研究分野の区分に関係なく、自己の専門性を高めるために必要と思われる科目を自由に修得することができる。

歴史民俗資料学の基礎的な知識を身につける為の歴史民俗資料学総論、さらに歴史民俗資料学を深めるために多くの関連科目が開設されている。歴史研究や民俗研究に密接に関係する**考古学**、**文書学**、**比較文化論**、**アジア史**などの科目や、新しい資料学構築のための情報工学・自然科学的科目の**情報処理・発信**、**保存科学**、**知的財産権**などである。特に**博物館資料学関係**の科目は群として独立性を高めて充実を図っている。院生はこれらの科目の中から自己の興味関心に基づき必要単位数を修得する。

さらに本研究科では国際的に活躍できる研究者を育成するため、**国際理解**（英語・中国語・日本語）を置き、実習科目を重視するため、**実技実習**と**調査実習**を開設し、資料を扱う技能や調査方法を実践的に習得できるようにしている。また論文作成指導の強化を図るため**論文演習**を設け、教員は専門分野を越え全員で指導にあたる体制を整えた。

学修の流れ

博士前期課程 学修の流れ

学年	4月 入学	10月 入学	事項	備考
1年次	4月	9月	オリエンテーション	
			指導教授を決定する。	
			履修登録 必修科目履修(4単位) 「論文演習」履修(4単位) 講義・実習科目履修	必修科目, 指導教授の「論文演習」, 講義科目を含めて20単位以上修得すること。(論文提出要件)
	9月	4月	各自の研究テーマを決定する。	
2月	8月	論文作成計画概要を提出する。		
2年次	4月	9月	履修登録 「論文演習」履修(4単位) 講義・実習科目履修	指導教授の「論文演習」を4単位修得する。 2年次修了までに必修科目を含め34単位以上の修得すること(修了要件)。 修了見込証明書発行基準: 2年次に在学し20単位以上を修得していること。
			5月	10月
	6月	12月	論文計画書を提出する。	論文タイトルや概要を決定する。
	10月	5月	論文中間報告会	
	11月	5月	語学認定試験	(論文提出要件)
	12月	6月	論文提出準備	作成要領をもとに準備する。 修士論文審査員(主査・副査)が決定される。
			1月	7月
	3月	9月	学位授与式	

長期履修者は、「学修フローチャート」を参照して下さい。

博士後期課程 学修の流れ

学年	4月 入学	10月 入学	事項	備考
1年次	4月	9月	オリエンテーション	
			各自の研究テーマ・指導教授を決定する。	
2年次	4月	9月	履修登録 「論文特殊研究演習」履修(4単位) 講義科目履修	指導教授の「論文特殊研究演習」を4単位修得すること。
			3年次	4月
6月	12月	論文計画書を提出する。	論文タイトルや概要を決定する。	
3年次	7月	2月	論文中間報告会	
	9月	3月	予備審査用論文提出	
	10月	4月	語学認定試験	(論文提出要件)
			論文提出準備	作成要領をもとに準備する。 博士論文審査員(主査・副査)が決定される。
	11月	5月	論文提出	
	1月	7月	最終試験	主査・副査により口述試験が実施される。
3月	9月	学位授与式		

論文作成要領（博士前期課程）

第一セメスター（導入期間）

講義及び演習を幅広く履修し、自己の見識を広める。それと同時に、修士論文テーマについて考える。とくに、夏季休暇を利用して実地調査や資料収集を行い、論文テーマを明確にしていく。

- 指導教員と相談のうえ、論文テーマを提出する。

第二セメスター（準備期間）

継続して講義及び演習を幅広く履修する。修士論文テーマに関する文献資料を収集し、熟読して論文の方向性を考える。

- 指導教員と相談のうえ、論文作成計画概要を作成する。

第三セメスター（発展期間）

修士論文のテーマを確定し、文献資料の整理を行うことによって論文の骨子を考える。この作業を通して、論文の視点と方法を明確にしていく。

夏季休暇を利用して、集中的に実地調査や文献調査に行って資料収集に努める。

- 指導教員と相談のうえ、修士論文計画書を提出する。それをもとに、報告会において研究科教員の指導を受ける。

第四セメスター（完成期間）

これまで収集整理してきた資料を整理し、修士論文作成に向けて努力する。

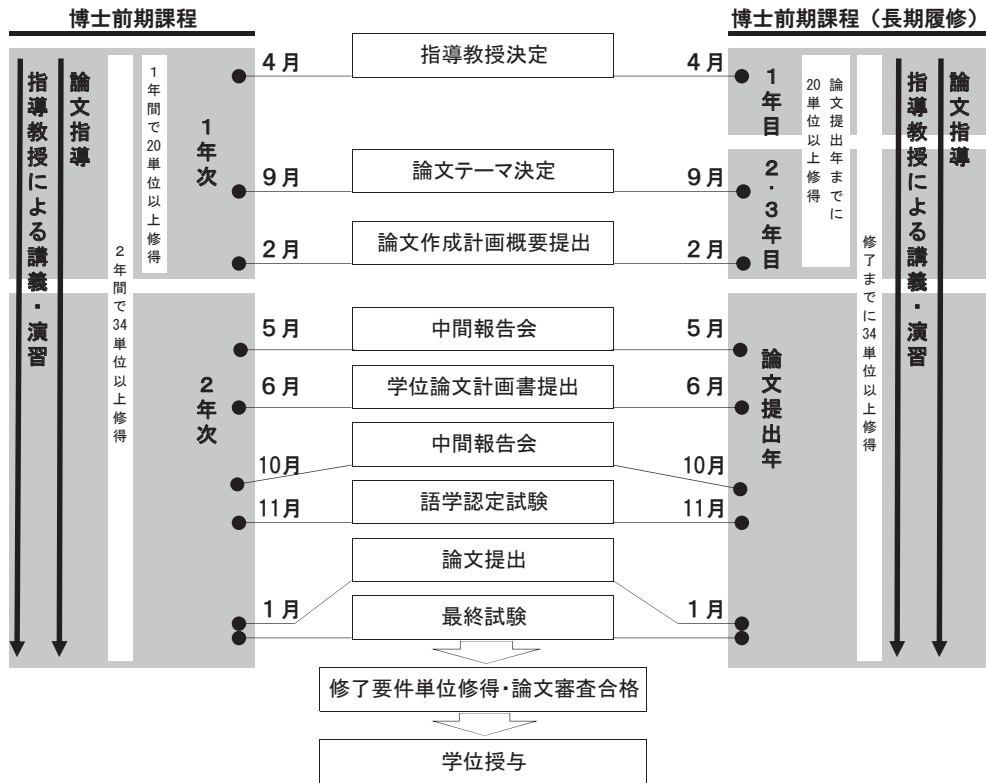
- 修士論文中間報告会で発表する。
- 修士論文を提出し、論文審査を受ける。

論文作成要領（博士後期課程）

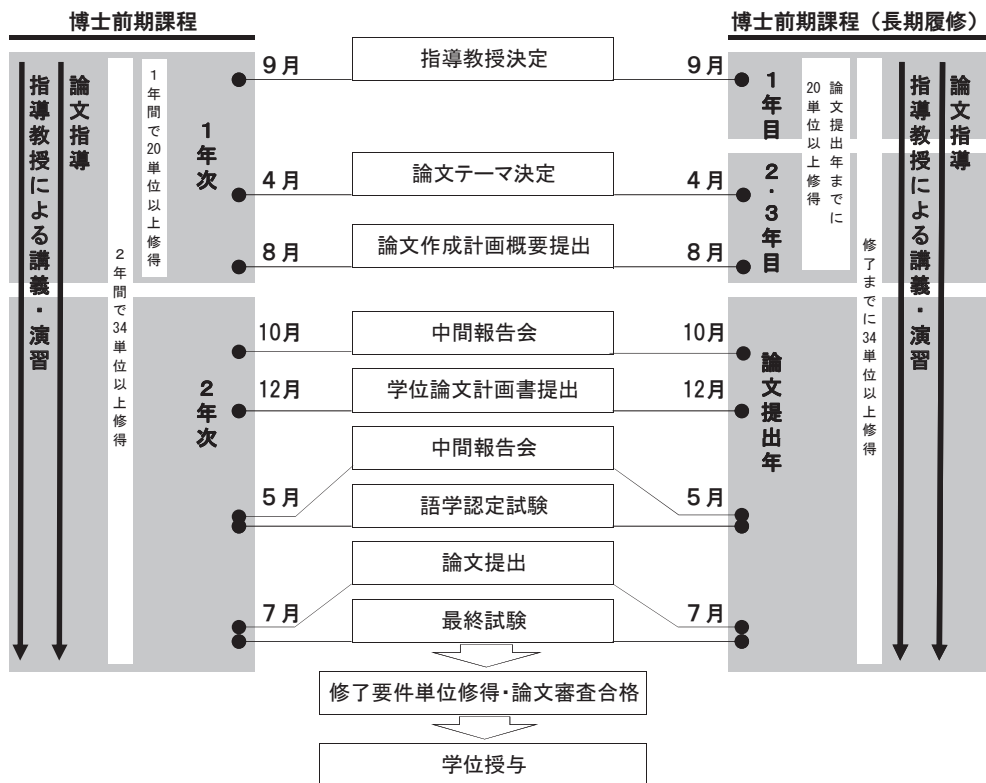
別途提示する。

歴史民俗資料学研究所 博士前期課程

4月入学者 学修フローチャート

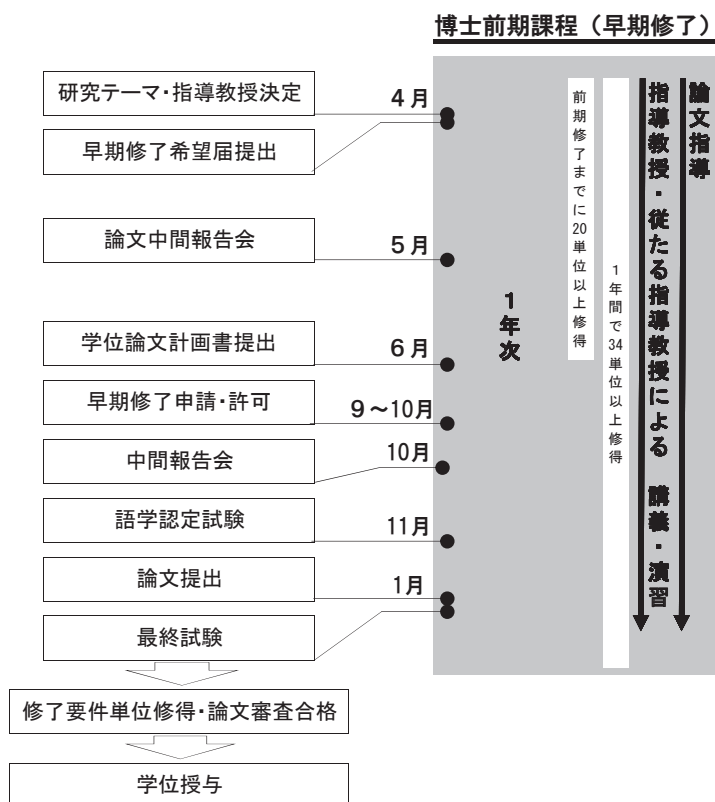


10月入学者 学修フローチャート

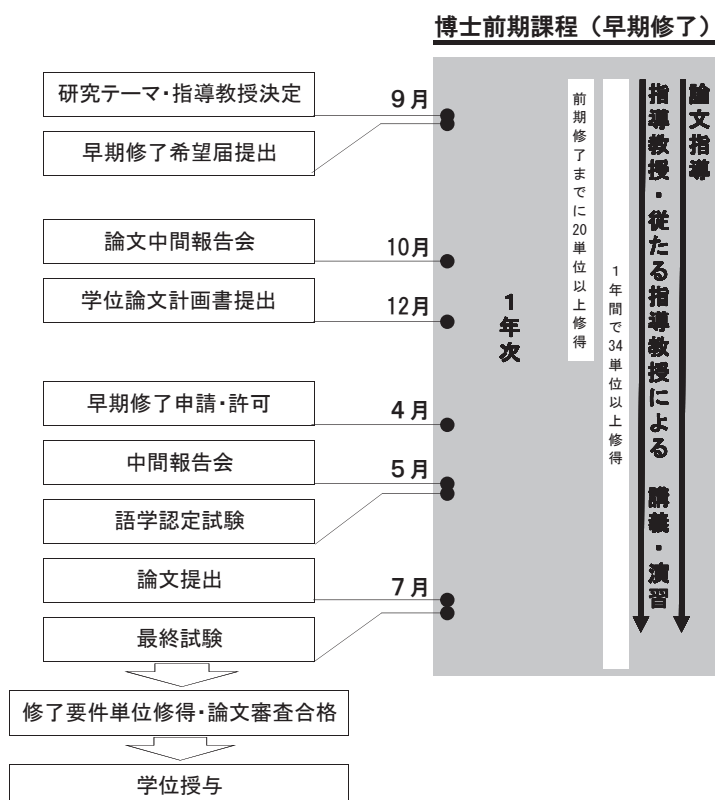


歴史民俗資料学研究所 博士前期課程 (早期修了)

4月入学者 学修フローチャート

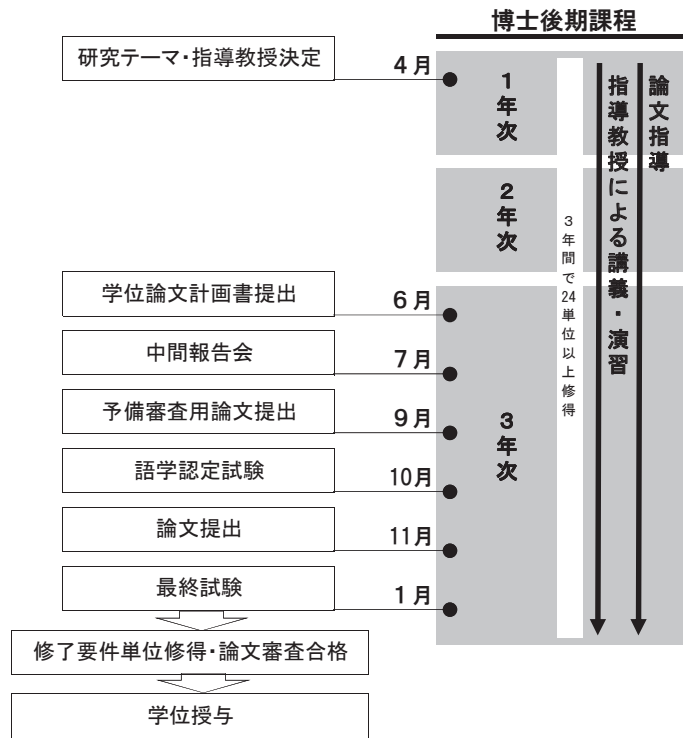


10月入学者 学修フローチャート

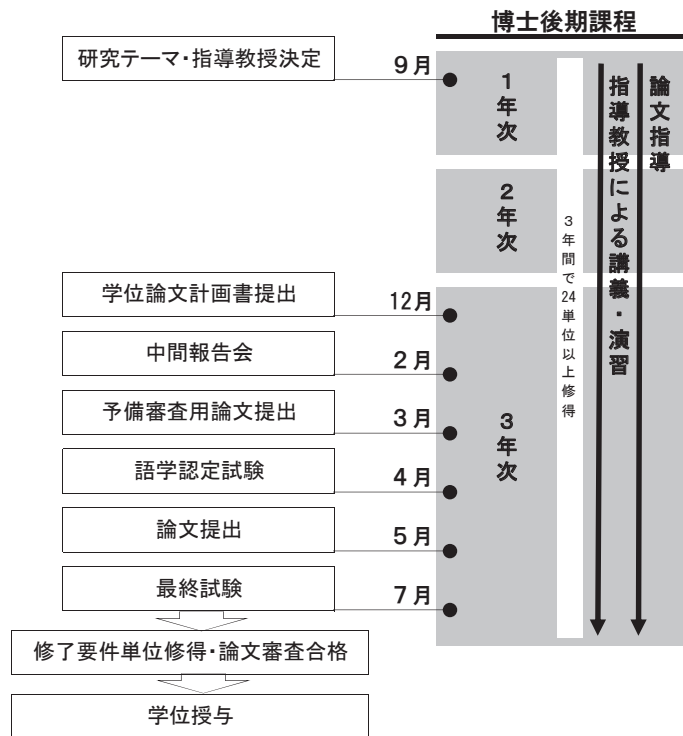


歴史民俗資料学研究所 博士後期課程

4月入学者 学修フローチャート



10月入学者 学修フローチャート



成績評価について

1 科目試験について

秀	90点以上	所期の目標を十分に達成し、特に秀でた成績を示している。	合格
優	80点以上	所期の目標を十分に達成し、優れた成績を示している。	合格
良	70点以上	不十分な点があるが、所期の目標をほぼ達成している。	合格
可	60点以上	所期の目標の最低限は満たしている。	合格
不可	60点未満	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない。	不合格

2 論文試験について

修士論文評価基準

- ①当該研究領域における修士としての必要な知識を修得し、必要に応じて当該研究領域における問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けているか。
- ②申請された学位に対して研究テーマの設定が妥当なものであるか、論文作成に当たって、そのテーマを踏まえた明確な問題意識を有しているか。
- ③論文の記述（本文、図、表、引用、文献リストなど）が適切かつ十分であり、明瞭にして一貫した論理構成を備え、明確かつ妥当な結論を得ているか。
- ④設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法（調査、論証など）が採用され、論文ではそれに則った具体的かつ的確な分析又は考察がなされているか。
- ⑤外国語文献読解や外国における調査を踏まえた論文については、外国語の解釈、運用が的確であるか。
- ⑥当該研究領域において、理論的又は実証的な見地から、一定レベル以上の水準に達しているか。

博士論文評価基準

- ①当該研究領域において研究者として自立した研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の各分野において活躍しうる高度の研究能力及び豊かな学識が身に付いているか。
- ②修士論文評価基準に挙げられた研究論文が備えるべき条件を十分に満たした上で、さらに当該研究領域に新たな知見と発展をもたらしうる独創的なレベルに到達しているか。
- ③本研究科博士後期課程で研鑽を積んだことが明らかな水準に達しているか。

教育課程表

2019年度 歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻博士前期課程 教育課程表(2013年度入学者から適用)

授 業 科 目	開講期	単 位			担 任 教 員	備 考			
		講義	演習	実習					
歴史民俗資料学総論 I	前	2			教 授	前 田 禎 彦	複数担当		
					准教授	博 士(史学) 大 川 啓			
	後	2			准教授	博 士(歴史民俗資料学) 後 田 多 敦			
					准教授	博 士(歴史民俗資料学) 関 口 博 巨			
	前	2			教 授	小 熊 誠		複数担当	
					教 授	昆 政 明			
	後	2			教 授	博 士(文学) 佐 野 賢 治			
					教 授	小 熊 誠			
	歴史民俗資料学論文演習 A	前	2			教 授			小 熊 誠
						教 授			昆 政 明
		後	2			教 授			博 士(文学) 佐 野 賢 治
						教 授			前 田 禎 彦
歴史民俗資料学論文演習 B		前	2			教 授	博 士(文学) 安 室 知		
						准教授	博 士(史学) 大 川 啓		
		後	2			准教授	博 士(歴史民俗資料学) 後 田 多 敦		
						准教授	博 士(歴史民俗資料学) 関 口 博 巨		
		歴史民俗資料学	前	2			教 授	前 田 禎 彦	
			後	2			教 授	前 田 禎 彦	
前	2				准教授	博 士(歴史民俗資料学) 関 口 博 巨			
後	2				准教授	博 士(歴史民俗資料学) 関 口 博 巨			
前	2				准教授	博 士(歴史民俗資料学) 後 田 多 敦			
後	2				准教授	博 士(歴史民俗資料学) 後 田 多 敦			
前	2				准教授	博 士(史学) 大 川 啓			
後	2				准教授	博 士(史学) 大 川 啓			
民俗資料学	前		2			教 授	小 熊 誠		
	後		2			教 授	小 熊 誠		
	前	2			教 授	博 士(文学) 佐 野 賢 治			
	後	2			教 授	博 士(文学) 佐 野 賢 治			
	前	2			講 師	博 士(民俗学) 常 光 徹			
	後	2			講 師	博 士(民俗学) 常 光 徹			
	前	2					休講		
	後	2					休講		
	前	2			講 師	博 士(文学) 余 志 清			
	後	2			講 師	博 士(文学) 余 志 清			
非文字資料学	前	2			講 師	小 澤 弘			
	後	2			講 師	小 澤 弘			
	前	2			教 授	昆 政 明			
	後	2			教 授	昆 政 明			
	前	2					休講		
	後	2					休講		
	前	2			講 師	羽 生 修 二			
	後	2					休講		
	前	2					休講		
	後	2					休講		

授 業 科 目	開講期	単 位			担 任 教 員	備 考
		講義	演習	実習		
B 類	書籍史科学特論	前	2			休講
	文書学特論	後	2			休講
	文化人類学特論	前	2		教授 Ph.D. 泉水 英 計	
	考古資料学特論	前	2		講師 博士(文学) 山田 康 弘	
	人文地理学特論	後	2		講師 博士(理学) 須山 聡	
	比較文化論	前	2			休講
	アジア史特論	後	2		准教授 博士(文学) 中林 広 一	
	ヨーロッパ史特論	前	2		教授 経済学博士 的場 昭 弘	
	知的財産権特論	前	2		講師 奥 邨 弘 司	
C 類	博物館展示学特論	前	2		講師 浜田 弘 明	
	博物館歴史資料学特論	後	2		講師 博士(歴史民俗資料学) 青木 俊 也	
	博物館民俗資料学特論	後	2		講師 博士(歴史民俗資料学) 青木 俊 也	
	文書館資料学特論	後	2		講師 木本 洋 祐	複数担当
					講師 佐藤 勝 巳	
					講師 上田 良 知	
	保存科学特論	後	2		教授 理学博士 西本 右 子	
	情報処理・発信特論	後	2			休講
D 類	国際理解(英語) I	前	1		講師 サイモン ジョン	
	国際理解(英語) II	後	1		講師 サイモン ジョン	
	国際理解(中国語) I	前	1		講師 博士(文学) 余 志 清	
	国際理解(中国語) II	後	1		講師 博士(文学) 余 志 清	
	国際理解(日本語) I	前	1		講師 吉川 香緒子	
	国際理解(日本語) II	後	1		講師 吉川 香緒子	
E 類	歴史史料調査実習	通年		2	講師 田上 繁	
	歴史史料整理補修実習	通年		2	准教授 博士(歴史民俗資料学) 関口 博 巨	
	民俗資料調査実習	通年		2	教授 小 熊 誠	
	民俗民具資料計測作図実習	通年		2		休講

指導教授

学生は、研究科委員会の承認を得て指導教授を決め、修了するまで研究全般の指導を受けるものとする。

指導教授は2名とすることができ、その場合には、いずれか一方を主たる指導教授とし、他を従たる指導教授とする。

指導教授を変更する際は、研究科委員会の承認を必要とする。

従たる指導教授は、年度ごとに変更することができ、研究科委員会に届け出るものとする。

履修方法

指導教授の指導によって、

- 「歴史民俗資料学総論 I および II」は、必修科目とする。
- 主たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A または B」を8単位修得すること。なお、主たる指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A または B」を8単位まで履修することができる。ただし、修業年限の短縮が認められた者については、主たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A および B」を4単位、従たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A および B」を4単位修得すること。
- 上記2について、長期履修を認められた者（修業年限が3年または4年）についても、主たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A または B」を8単位修得すること。なお、主たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A または B」、従たる指導教授の「歴史民俗資料学論文演習 A または B」を長期履修終了時まで履修することができる。
- A類から、講義科目 I または II を、最低2つの科目群にまたがり8単位以上を修得すること。
- B類から、講義科目を4単位以上修得すること。
- C類から、講義科目を4単位以上修得すること。
- D類から、同一言語の外国語科目 I および II を2単位修得すること。
- E類から、実習科目を2科目4単位以上修得すること。
- 講義科目 I および II、演習科目 A および B は、どちらを先に履修してもよい。
- 指導教授が研究上特に必要と認めるときは、他の研究科または学部の課程による単位を8単位まで、他大学大学院（神奈川県内の大学院間の単位互換協定校）の授業科目を10単位まで履修することができる。
- 上記1～10の科目を含め合計34単位以上を修得すること。ただし、上記10による修得単位は8単位を上限としてB類に換算する。

修了要件

- 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年以上（修業年限の短縮が認められた者については、1年以上）在学し、34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。
- 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上（修業年限の短縮が認められた者については、博士前期課程第1年次以上）に在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

2019年度 歴史民俗資料科学研究科歴史民俗資料科学専攻博士後期課程 教育課程表(2013年度入学者から適用)

授業科目	開講期	単位		担任教員	備考	
		講義	演習			
必修	歴史民俗資料学論文特殊研究演習A	前	2	教授	小熊 誠	
				教授	昆 政 明	
				教授 博士(文学)	佐野 賢 治	
				教授	前田 禎 彦	
				教授 博士(文学)	安室 知	
				准教授 博士(史学)	大川 啓	
				准教授 博士(歴史民俗資料学)	後田多 敦	
	歴史民俗資料学論文特殊研究演習B	後	2	教授	小熊 誠	
				教授	昆 政 明	
				教授 博士(文学)	佐野 賢 治	
				教授	前田 禎 彦	
				教授 博士(文学)	安室 知	
				准教授 博士(史学)	大川 啓	
				准教授 博士(歴史民俗資料学)	後田多 敦	
A類	歴史資料学	古代・中世史科学特殊研究 I	前	2	教授	前田 禎 彦
		古代・中世史科学特殊研究 II	後	2	教授	前田 禎 彦
		近世史科学特殊研究 I	前	2	准教授 博士(歴史民俗資料学)	関口 博 巨
		近世史科学特殊研究 II	後	2	准教授 博士(歴史民俗資料学)	関口 博 巨
		近代史科学特殊研究 I	前	2	准教授 博士(歴史民俗資料学)	後田多 敦
		近代史科学特殊研究 II	後	2	准教授 博士(歴史民俗資料学)	後田多 敦
		現代史科学特殊研究 I	前	2	准教授 博士(史学)	大川 啓
		現代史科学特殊研究 II	後	2	准教授 博士(史学)	大川 啓
	民俗資料学	民俗社会資料学特殊研究 I	前	2	教授	小熊 誠
		民俗社会資料学特殊研究 II	後	2	教授	小熊 誠
		民俗宗教資料学特殊研究 I	前	2	教授 博士(文学)	佐野 賢 治
		民俗宗教資料学特殊研究 II	後	2	教授 博士(文学)	佐野 賢 治
		口承民俗資料学特殊研究 I	前	2	講師 博士(民俗学)	常光 徹
		口承民俗資料学特殊研究 II	後	2	講師 博士(民俗学)	常光 徹
民俗技術資料学特殊研究 I		前	2		休講	
民俗技術資料学特殊研究 II		後	2		休講	
非文字資料学	芸術文化資料学特殊研究 I	前	2	講師	小澤 弘	
	芸術文化資料学特殊研究 II	後	2	講師	小澤 弘	
	文化遺産資料学特殊研究 I	前	2	教授	昆 政 明	
	文化遺産資料学特殊研究 II	後	2	教授	昆 政 明	
	景観資料学特殊研究 I	前	2		休講	
	景観資料学特殊研究 II	後	2		休講	
	建築文化資料学特殊研究 I	前	2		休講	
	建築文化資料学特殊研究 II	後	2		休講	
	オーラルヒストリー特殊研究 I	前	2		休講	
	オーラルヒストリー特殊研究 II	後	2		休講	
B類	国際理解(英語) I	前	1	講師	サイモン ジョン	
	国際理解(英語) II	後	1	講師	サイモン ジョン	
	国際理解(中国語) I	前	1	講師 博士(文学)	余 志 清	
	国際理解(中国語) II	後	1	講師 博士(文学)	余 志 清	
	国際理解(日本語) I	前	1	講師	吉川 香緒子	
	国際理解(日本語) II	後	1	講師	吉川 香緒子	

指導教授

学生は、研究科委員会の承認を得て指導教授を決め、学位論文の作成、その他の研究全般の指導を受けるものとする。指導教授は2名とすることができ、その場合には、いずれか一方を主たる指導教授とし、他を従たる指導教授とする。指導教授を変更する際は、研究科委員会の承認を必要とする。従たる指導教授は、年度ごとに変更することができ、研究科委員会に届け出るものとする。

履修方法

指導教授の指導によって、

1. 主たる指導教授の「歴史民俗資料学論文特殊研究演習AまたはB」を12単位修得すること。なお、主たる指導教授が学生の研究上必要と認める場合には、従たる指導教授の「歴史民俗資料学論文特殊研究演習AまたはB」を12単位まで履修することができる。
2. A類から、講義科目IまたはIIを最低2つの科目群にまたがり10単位以上を修得すること。
3. B類から、同一言語の外国語科目IおよびIIを2単位修得すること。
4. 講義科目IおよびII、演習科目AおよびBは、どちらを先に履修してもよい。
5. 上記1～4の科目を含め合計24単位以上を修得しなければならない。

修了要件

1. 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、24単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することとする。
2. 博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

研究領域

歴史民俗資料学研究科

[歴史民俗資料学専攻]

担当教員	専門分野
大川 啓	日本近現代史
小熊 誠	民俗学, 文化人類学
昆 政明	民俗学, 船舶史
佐野 賢治	民俗学, 常民史
後田多 敦	日本近代史, 琉球史
関口 博巨	日本近世史, 古文書修復
前田 禎彦	日本古代・中世史
安室 知	民俗学 (生業論・環境論), 物質文化論